

## 遺愛女子中学校のグローバル教育

6月1・2日に青山学院大学で第2回メソジスト関係学校国際同盟(IAMSCU)が開催され、参加してきました。

遺愛はもともと北アメリカメソジスト監督教会から派遣されたハリス御夫妻が138年前に礎を築いた学校です。他のプロテスタント教会諸派とともにメソジスト派は戦時中に日本基督教団に統一され今なお所属していますが、遺愛の原点はメソジスト派です。そのメソジスト関係学校の世界的な流れはどのようになっているのか学びたいと考え出席してきました。

2日間で、7つの講演、10の報告とパネルディスカッションはどれも内容の濃いものでしたが、特に興味をひかれ、啓発されたのが世界メソジスト協議会教育委員会会長でワシントン大学のアモス・シルバ・ド・ナシメント教授の『アジア、アフリカ、南アメリカにおけるメソジスト教育機関の地域的ネットワークの構築』という題の講演でした。

講演のなかでアモス先生は、従来のグローバリゼーション(経済、文化、政治、環境問題など人類の活動とその影響が、国家や地域の境界を超え、地球規模で一体化していく現象のこと)がアメリカのアジア、アフリカ、中南米への政治的、経済的、文化的侵略の色合いが濃く、テロリズムを招くの要因の一つとなってきたことを指摘した上で、これからの新しいグローバリゼーションのあり方を提案していました。それはアメリカからのトップダウンではなく、ボトムアップすなわち下からの新しいグローバリゼーションで、欧米、アジア、アフリカ、中南米、オセアニアの人々がお互いに水平的な立場で話し合い、理解し合い、分かち合うものであり、メソジスト派のDNAの中にグローバル教育がそもそも含まれていると熱く語っていました。

遺愛女子中学校は、来年度から新しいグローバリゼーションを意識したグローバル教育を本格的に開始します。6月23日の遺愛女子中学オープンスクール

で正式に発表しました。それは、単に英語を学ぶだけでなく、海外の文化、それも欧米だけでなくアジア・アフリカを含めた文化について学び、さらに日本文化についても詳しく知り、外国の人々と積極的に交流し、その内容を伝えることができるようにします。また、ダイアログなどを通し、議論する力や論文を書く力を体系的につけるプログラムを実施していきたいと準備を進めています。もちろんその成果は、遺愛の高校教育にもいかされていきます。

2012年6月30日



6月23日の中学オープンスクールには100組180名以上の皆さんにお越しいただきました。